

## 主催者のみなさまへ

◎ 本紙（基本の遊び方＆トレンドカード解説書）＋主催者のみなさまへ

◎ トrendカード80枚（うち追加用白紙カード9枚）

◎ ビジョンシート（白紙フォーマット／記入例＆進行役のみなさまへ）

### 【活用方法】こんな場面で活用してください！

#### ＜市民ワークショップに＞

まちづくりの基本方針となる「総合計画」や「都市計画マスタープラン」などでは市民の意見を反映していくことが重要です。市民が参加者としてゲームに参加することで、将来のまちの姿やライフスタイル像を描くことができ、計画づくりの参考となる意見を導き出すことができます。計画の対象となるエリアでゲームに取り組むことを推奨します。

#### ＜高校（地理総合）の授業に＞ 2022年必修化！

全国の高等学校で必修化されている「地理総合」では、社会的事象の地理的な見方・考え方をを用いて、課題を追求したり解決したりする活動を取り入れることが求められています。高校の「地理総合」の授業の一環でゲームを行うことで、対象とするエリアの地理的な見方・考え方を養うとともに、ゲームの参加者と協働しながらまちの将来像を思い描くという地域課題の解決に向けて構想するトレーニングにもなります。高校のある場所から5km圏内のエリアなど、高校生に身近なエリアでゲームに取り組むことを推奨します。

#### ＜地域をフィールドにする大学の授業や演習に＞

実際のまちを対象として、現況把握から、課題抽出、そして計画立案にいたるまちづくりプロセスを学ぶ大学の授業や演習でも使用することが可能です。特に、地域の課題だけではなく、未来の社会状況も踏まえた上でまちの将来像を考える際に、アイデア発想の手助けになります。対象とする地域の設定は自由ですが、学生が当事者意識を持ってまちの将来像を考えられる場所とすることを推奨します。

#### ＜行政職員やコンサルタントの研修に＞

住民参加のまちづくりワークショップの実施が浸透してきたことから、行政職員やまちづくりコンサルタントがワークショップの運営をする機会が多くあります。例えば、研修などの一環でゲームを行うことで、まちづくりワークショップのプロセスを体感し学ぶことができます。さらにゲームを部署の枠を超えて実施することで、普段は関わる人が少ない立場の人と考えを共有でき、多分野の横断的・総合的な視点が必要な実際のまちづくり業務においても部署（専門）を超えたコラボレーションが期待できます。

### 【事前準備】

#### ◎対象とする地域の設定

対象とする地域の特性や範囲に制限はありません。ゲーム開始前にまち歩きを実施して対象地域を見て回ったり、写真やスポットの情報が書き込まれた地図を用意するなどして、参加者が地域特性を理解しやすくなるとよいでしょう。

#### ◎対象とする地域の地図

対象とする地域を含む地図を用意してください。少し広め（周辺がわかる）の地図を用意するとよいでしょう。

#### ◎グループ分け

できるだけ多様な属性（年齢・性別・職業・居住地域 etc...）のメンバーで構成される5～6人のグループをつくります。市民ワークショップや行政研修などの場合は、各グループに進行をサポートする進行役を配置してください。主催者は、進行役との事前打ち合わせの場を設け、ルールや進め方についてあらかじめ説明しておくことをおすすめします。

#### ◎トレンドカードの準備

トレンドカードは71枚あり、基本的に全て使用します。ただし、地域特性に応じて、まったく関連性がないトレンドカードはあらかじめ取り除いておきます。一見関係がないと思われるが意外な発見があることも考慮して取り除くカードは最小限にします。また、地域の特性やゲーム実施の目的に合わせて、自由にトレンドカードを追加できるように白紙のトレンドも入っています。